
第1回 福祉のまちづくりモデル地区推進部会 議事録

平成18年9月29日 13:30~14:30 本庁西第2会議室

出席委員(敬称略): 三浦匡史、望月武、長根清平、宮部幸子、国島徳正、塩畑ツネ、柴崎恵子、徳永理代子、上迫田健二(代理:田熊陽子)

関係団体職員:さいたま市社会福祉協議会 大橋太郎、久保田雅明 さいたま市社会福祉事業団 船戸均

関係課:都市施設課 古市

事務局:福祉総務課 高瀬、高根 コンサルタント (株)計画技術研究所 永野、石田

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 会長選任

委員の互選により、三浦匡史氏が選出された。

5 議事等

1) モデル地区における取組みの考え方について

事務局 資料確認

資料1説明(省略)

<モデル地区におけるこの部会の役割とは:モデル地区の企画立案、実施、協議会への報告>

<さいたま市の福祉のまちづくりとして、モデル地区推進部会と交通バリアフリーの部会の2つがあり、こちら側の部会は主にソフト面を担っている>

<今回は部会の立ち上がりのタイミングの関係で、高砂小提案のプログラムに乗る形だが、来年は、もっと前段階から関わっていく>

国島 部会の役割、今回のテーマである小学校を中心とするモデル地区の活動に、どういうふうに私たちが関わるのか。

事務局 今年度特に具体的に出てくるところとしては、高砂小学校との連携において、人的な部分でのまち歩きなどに参加してもらうことなど、モデル地区の活動に参加してもらいたい。

来年度は仲本小学校との活動を展開していきたいと考えるが、実際の東口のまちづくりとどう関わっていくか、内容的な企画も含めて部会としてご意見を頂きたい。

活動自体は、協議会でも報告していきたい。

具体的なイメージは次の資料で出てくるが、総合学習という学習プログラムの中で、福祉のまちづくりを認識してもらって共有化するための取組みを考えている。今回は、小学校さんからいただいた企画が資料のベースになっているが、内容的にどうかという辺りも部会でご意見、アドバイスを頂けたらと考えている。

国島 活動の主体は、小学校の授業の中で行われる。その活動の結果として、私たちの部会がどう関わったか、ということか。

事務局 協同して取組んで頂きたい。全員がというのは無理とは思いますが、積極的にご参画頂けたらと思う。さいたま市の福祉のまちづくり推進協議会に、こちらの部会と、交通バリアフリーの部会の2つを設け、こちらはどちらかというソフト事業主体の取組みを推進するという事となっている。

福祉のまちづくり条例は、整備基準を定め、高齢者や障害者などだれもが利用しやすい建物などを広めていく条例で、どちらかというハードに寄っている。但し、いくら基準通りに施設を整備しても、人々の行動(ソフト面)が伴わないと、整備されたハードが活かされない。そこで、福祉のまちづくりのソフトとは何かというのを、一昨年来の「福祉のまちづくり推進指針」を検討するなかで議論してきた。

市社会福祉事業団 船戸

実際に行動を起こそう、という時に、この部会が目に見える行動を起こす主体となる。

今小学校の名前が挙がっているが、小学校は取りかかりの入り口。一番最初に取り組むのに展開しやすいということで、そこから入ることになっている。小学校にとどまらずに、実際にやる中で、地域とどう関わるか、関わらなかったとしたら、どうしたら地域と関われるか、今ある資源(建物や人など)とどう関われるかということを探しながら、こちらから提言していくようなことがある。例えば、東口の開発であれば、商店街や再開発ビルに入ろうという人たちとどう関われるかということを考えていかなければならない。そういうところに広がって行く話だと思う。

そこはこれからの議論で、まだ見えてこないところがあるが、最終的には「みんなでまちをつくっていこう」というテーマがあり、それに向かって7つの柱立てがあり、さらに市民を巻き込んでいく

にはどんなことができるのか、ということを実践し、整理していくのがこの部会の役割だと思う。2年目は、もっと地域へ広げていき、3年目、4年目と発展していくイメージだ。

三浦 私も船戸委員と同様に考えている。部会の立ち上がりが少し遅かったので、小学校のカリキュラムが先行してしまっているが、来年の仲本小学校での取り組みは、ここでやったことをどう活かすか。子どもたちから見て商店街に意識が向いたとすれば、そこに繋げていくのは大人の役割と思うので、この部会が動いていくことになる。

協議会に報告を上げて連携していくことで、都市整備のハードの部会とも繋がった取り組みも可能となってくる。

その辺りは、これからのところなので、まだぼやっとしているが、そういうところも含めた取りかかりとして小学校の総合学習があるということでご理解いただきたい。

長根 今年と来年は、高砂小学校と仲本小学校の生徒さんと関わりながら動いていくということでよいのか。

事務局 それでお願いしたい。

三浦 さらにそれに付け加えるべきということがあって、我々が勝手に汗をかく分には、それでいけないということはない(笑)。

2) 高砂小学校との連携による取組みの進め方について

事務局 資料2説明(省略)

<なぜ4年生なのか 2年目の継続展開も狙っている

総合的な学習の時間は子どもたちの興味に応じて設定する>

望月 交通バリアフリーで大宮でマップづくりをやった時には5年生を対象にしてやった。どうして今回4年生になったのか。

事務局 当初のうちあわせでは、4年生か5年生かという議論があったが、4年の時に一度やって、5年にも再度繰り返すことでの効果を狙いたいというお考えがあった。

仲本小 田熊

総合的な学習の時間で取り上げるということは、教科書がない。自分たちでどういうことをやってみたいか、どういうことを自分が疑問に思っているのか、発展してどういうことをやりたいかを考える時間。高砂小も児童からそういう希望があって4年生に設定されたのではないかと思う。

長根 だいぶ前に4年生の子どもさんに、目の見えない人の生活を知りたいということで話に行った。4年生ごろは、そういうことを知りたい時期なのかと感じた。

<日程は厳しい 部会の他にも協力してくれる人を呼んでほしい>

長根 自分たちが関わることになるので、2日連続は厳しい。

事務局 日程は本当に厳しい。4クラスあるので、4回分になる。2日で2時間で1日2クラスずつやりたい。皆様方の日程を含めて可能な展開を検討することになる。

長根 例えば、インタビューというところ。私も視覚障害者が関わるのは、延べ2名ということで、自分の他にも協力してくれる人を呼ぶということか。

事務局 それでお願いしたい。

三浦 市民委員の方や私は、グループ補助者というのが期待されているところか。

事務局 それでお願いしたい。

三浦 聴覚障害者の方はどう対応するのか。

事務局 通訳者を手配したいと考えている。

<知的障害者のことも取り上げるべき 今回の扱いは学校と相談する>

宮部 知的障害の関係の団体だが、知的障害が入っていない。実際のところ、知的障害は数が多いので、「知的障害者も数多くいる」ということを組み入れるべきではないか。

事務局 知的障害者については、改正バリアフリー法でも「身体障害者」とあったところを「身体」ととって「障害者」として、知的障害についても取り上げているので大切なことだと考えている。

具体的には、どういう組み入れ方が可能か。

宮部 日中は施設に通っているのだから、参加するとなったら、施設にも協力を仰がないといけない。

知的障害は、危険行動があり、赤信号だから止まれということが、分からずに飛び出してしまうということがあり、バリアフリーを整備しても、知的障害にとって安全なまちにはならないということがある。ここをご理解いただきたい。

事務局 例えば、三番目のところなどで、一緒にご参画いただくということもあり得るか。

宮部 参加するとしたら、三番目だろう。障害当事者は自分で話せないことが多い。保護者の立場から子どもがこうなんだということを話することはできる。

事務局 今回の企画では、本当に重度な人というよりは、比較的自立して動ける人を考えている。

宮部 子どもたちに、障害は三障害だけでなく、知的障害もいるということを伝えることは大切だと思う。

市社協 大橋
人間でも、社協関係者で、知的障害をどう伝えられるのかを研究している。他の障害の方と一緒にしてしまうと、伝わりにくいということもある。さいたま市は、さいたま市で、知的障害をどう伝えていくのかということを考えていくことは必要だと思うので、別立てのプロセスで考えていただきたい。

<子どもに近い年齢の障害者と交流してもいいのではないかと。>

徳永 子どもでも知的障害だけでなく、視覚障害、聴覚障害がある子もいる。お年を召した方が来て話をするのもいいが、自分に近い年齢の人が来て話をするのも、効果があるのではないかなと思う。

<知的障害の大人と子どもはすんなり交流できる。知的障害の理解は、全市的にも課題となっている>

市社会福祉事業団 船戸

今の仕事の前に、知的障害の施設にいた。近くの学校と交流があって、どうすれば小学校の子どもに知的障害を理解してもらえるかは私も悩んだ。現実には、先生と打ち合わせをし、先生に知的障害を伝え、子どもには私から1時間講義をした。講義をした上で、少人数で半日ずつ、4コマ一緒に過ごしてもらった。小グループで体験をして、4年生の子どもたちで、説明は難しかったが、来てみたら、知的障害を持つ大人ともすんなり入れた。一緒に入ってもらうのが一番いい。ただ混ぜればいいということではなく、プロセスを踏んで考えた方がよろしいと思う。

今回、テーマとして取り上げるとすれば、まずは親御さんに話をしてもらって、その後で障害を持った人と接点をつくる形を取ることが大切だと思う。今、社協からもお話があったが、社協で研究しているプログラムがあれば、そのプログラムを充実させて、この場でもつなげていくことは必要だし、できることだと思う。今回の中で取り上げるのは、視点がぼやけると思うので、三番目のところにお母さん方にお話頂くのがよいと思う。

三浦 今お話があったことは、全市的に取り組んでいかなければいけないと思う。それはそれで、忘れないようにしておいて、相互理解を図るためのプロジェクトは全市的に進めていかなければいけないことだ。

ただ、こういうモデル地区の取り組みをきっかけとして、やれるところからやって立ち上げていくことも大切だ。

宮部 確かに知的障害は判りにくい障害であるが、障害者には知的障害も多いということはぜひ伝えてもらいたい。

三浦 第1回のところで、知的障害についても情報を入れてあげた方がいいのではとも思う。

市社会福祉事業団 船戸

今回は、レクチャーレベルで入れておく方がいい。

三浦 第一段階で、そういったことを子どもたちに伝えてくださる方がいいれば、そこも含めて話をしてもらうのがいい。

<同じ人が通して説明できる方がいいのでは？ 人によって違うところもあるので、違いも含めて学んでほしい。最初に「人によって違う」ということを言うことが大切>

長根 今までの例からすると、同じ人が4クラスなら4クラスに説明しないと、説明の仕方が違うので分かってもらえない。全部一緒にやることはできないか。午前中1日だけでそれを消化することはできないか。

私は先天盲だが、中途の人とは、白杖の使い方も違って来るので、一人なら一人が4クラスに説明できる形がいいと思う。

柴崎 子どもたちはクラスが違っていると聞く説明も違うのは良いのではないかと。違いを聞いて、子どもたちに教えてあげることもいいと思う。

三浦 車いす使用者だって、その人、その人で使い方は全く違う。

市社会福祉事業団 船戸

市の職員向けにレクチャーした時に、市の職員で中途障害のある人と一緒に出てもらって説明したが、目が見えない人は彼と全く同じ人がいるわけではないということを説明した。中途の人と先天の人と、色や形の伝え方が違うということは伝えた。車いすの体験も、今日持ってきたのは、どこでもある車いすだが、実際には自分に合わせた車いすを使う。片麻痺用もあるし、電動もあるし、という

ことをビデオで補った。

長根委員の指摘は、一人の人が全てを伝えることができるのか、何らかのフォローが必要なのかということだと思う。だからといって、様々なタイプの人に来てもらって時間をとってもらうことがいいのか。時間的に難しければ、子どもたちに「視覚障害」といっても、いろいろな人がいるということ、何らかの形で伝えていくことが大切だ。そこは確認しておく必要がある。

三浦 学習効果のことを考えると、同じクラスでもゲストティーチャーが変わってしまう可能性がある。混乱させないように、クラス単位でフォローしていくことが大切。

<地域にどう広げていくか 仲本小で取り組む時は、モデル地区本来の目的に沿って商業者、一般市民にも広がるようにやっていきたい。今回は、時間的な問題もあり、内容を大きく動かすのは難しい。>

市社協 大橋

社協の立場から福祉教育に取り組むと、当事者と学校の関係だけにせず、どう広げていくかということが課題だと思う。学校と当事者だけの関係だけでなく、ここにどれだけ一般の市民を巻き込んで広げていけるのか、ということもある。PTAとして、P:親が参加してくれるということがあったが、もっと地域の人を巻き込んでいく工夫を考えていかなければいけない。

子どもたちが当事者の方にインタビューをするということはあるが、どんなことに困っているのかを商店の人や、まちにいる人に聞いてみる。インタビューをする技術を子どもたちは学んでいくし、それをまとめることで、学ぶことがある。聞かれた大人にとっても「子どもたちに適切な答えができたか」ということが心に残る。そんな工夫が必要なのではないかと考える。いろいろな人をどう巻き込んでいくのか、という視点は常に持っている必要がある。

都市施設課 古市

どういう形で市の事業、まちづくりに反映させていくのか。一緒に体験して、障害のある方とふれあって、お互いに勉強し、どういう形で部会の検討課題として反映させていくのか。今の形だと、子どもと障害者が行動を起こすというところに留まっているような感じがある。

仲本小 田熊

来年は仲本小でどう発展させるか、という思いで話を聞いていた。総合的な学習の時間でやっていると、現実と同じような形でやっている。車いすの体験、アイマスクの体験、盲導犬の体験などをやっている。来年、子どもたちが一つ学年が上がると、子どもたちに何に取り組むかと聞けば、また同じことになると思う。

来年仲本がやるとすると、同じことを、東と西の違いでやっても、モデル地区本来の目的とずれてしまうと思った。高砂の取り組みは一つのステップとしてやっていただいて、それを土台として皆さんで話し合っていた方がいいと思う。

来年は別の視点で、商店ではどうか、一般の市民はどうなのか。たくさんの商店があるので、実際に、障害のある人たちがどんなに困っているのか、障害のある人がどう思っているのかを一般市民の人に訴えかけていくために、学校がステップとなるような取り組みを考えていけたらいいと思う。

もし、仲本が受けてやるのであれば、同じことをやるのはこちらの意図するところではない。モデル地区推進部会に役に立つことをやろうとするのであれば、部会として「こういうことをしてほしい」ということがないと、例年と同様車いすとアイマスクと盲導犬ということになってしまう。もっと別なところから考えていかないといけない。

市社会福祉事業団 船戸

高砂小の取り組みも、モデル地区部会が入らなくてもできたと思う。ここでもう少し先を見据えて、地域の人に声をかけて、入ってもらってはどうか。一緒に歩いてみると、商店の人にも考えることができると思う。今の進め方で、地域の人を絡めて様子を見るというものではないか。

事務局 今日欠席だが、浦和地区の自治会連合会の人にも委員に入ってもらっているので、まち歩きやイベントなどにも参加してもらいたいという趣旨がある。

市社会福祉事業団 船戸

商店の人などでも、意識があれば、体験をすることもできる。しかし、それは商店街だけの体験に留まってしまふ。ここで、子どもと商店の人が一緒に体験をすることができないか。

事務局 商店街に声をかけるかどうかは、高砂小の学校カリキュラムの中でどう考えるか、ということもあるので、やれるかやれないかをここで議論するのは難しい。もちろん、ご意見を伝えることはしていきたい。

三浦 高砂小のカリキュラムは、もう大きく動かすのは難しいだろう。「こうやりたかった」ということは来年の仲本小の取り組みに反映させるということはいかがか。

行政側では、都市施設課の方や、東口整備関係、駅周辺整備に絡む関係の方、コミュニティの分野の方などにも参加してもらいたい。来年度は東口が完成して、公共施設が入るので、新しくできる

施設がユニバーサルデザインやバリアフリーの視点で欠点があるとどうしたものかということもある。推進協議会の目的として、事業を市民参加で進めるといえることがあるので、当然商店街の参加ということもある。

<日程調整はシフト表をつくってほしい>

<予備日の設定は学校と調整する>

三浦 実際的には、シフト表をつくって調整してもらいたい。

市社会福祉事業団 船戸

予備日は必要だ。雨が降ったらどうなるのか。学校としては予備日を設定することは可能か？

仲本小 田熊

学校もいろいろな行事を縫って日程が決まっている。予備日を設定するには、他の授業や行事などとの兼ね合いがあるので難しいかもしれない。

<推進協議会へは、交通バリアフリー専門部会の結果とともに、今回の取り組みについて報告する>

三浦 推進協議会に報告するのはどういうタイミングで考えているか。

事務局 推進協議会の日程としては、12月以降に報告事項が固まるのであれば、報告が固まった後にやった方がよろしいのかということがある。モデル地区の取り組みに目途がついたら、速やかに協議会に報告していきたい。

三浦 もう一つの部会の動きはどうか。

都市施設課 古市

今週の火曜日に部会を開いた。いろいろな事業者の事業がバラバラに動いてしまっている。目標年次までに時間がない中で、集中投資ができないかという事業のスケジュール管理をやりたい。もう一つは、昨年岩槻市が合併して、基本構想が未策定なので、基本構想を策定したい。内容はこれから詰めていくが、岩槻は地区部会を立ち上げて、東洋大の水村先生が座長で進めていきたい。

<仲本小の取り組みについても、早急に計画を考えたい>

仲本小 田熊

来年の計画は、12月ごろから立てることになっている。そろそろ来年度の計画を考えなければならない。

三浦 今日の議論の流れからすれば、学校を外すということはない。

<関係課を含めた事務局名簿を作成してほしい>

三浦 私からのお願いになるが、推進協議会もそうだが、事務局の名簿も作成してもらえないか。県の会議では、事務局及び関係課名簿を頂く。市の中でどういう方がどういう関わりを持つのか、というのは、参加している委員には分かりづらい。

以上